2018年
4月15日号
第125号

日本統一運動
Newsletter

VISION 2020
Japan Unification Movement Newsletter

真の父母様と歩む人生の“黄金期”に最高の精誠を捧げよう！

HJ天苑特別巡礼に日本から50人が参加

4月6日から10日まで、韓国・清平の天正宮博物館にある世界の指導者層のための教育施設「HJ宮」を訪れる特別巡礼が行われ、日本から本部関係者や忠孝家など約50人が参加しました。10日朝には、真のお母様から直接、愛と激励のみ言を受ける恵みにあずかり、参加者は永遠に忘れることのできない時間を過ごしました。

一行は期間中、「本郷苑」の参拝をはじめ、真の父母様の足跡をたどりながらHJ天苑内の聖地を巡礼。また、鄭元周(チョンウォンジュ)総裁秘書室長や尹煐鎬(ユンヨンホ)世界本部事務総長、徳野英治会長、李成萬(イソンマン)副会長などを講師に招いて特別講座が開かれ、真の父母様の生涯路程や真のお母様を中心として世界規模で展開する最近の摂理などを学びました。

10日朝、アメリカから8日に韓国に戻られたばかりの真のお母様をお迎えして「天地人真の父母様勝利帰国 特別朝食会」が行われ、韓日米の指導者のほか、日本からの巡礼参加者も参席しました。

朝食会では、韓国とアメリカの指導者による報告などのあと、日本から特別巡礼に参加した婦人メンバーが証しを行い、「尹煐鎬事務総長が『なぜこのように大変な道を行かれるのですか？』と尋ねたとき、お母様は『母だから……』と言って涙を流されたと聞き、心を動かされました。勇気と溢れる活力をもって前進されるお母様のように、私たちも天一国の義人となることを固く誓いました」と決意を語りました。

それに先立ち、真のお母様がみ言を語られました。その一部を抜粋して紹介します。

み言を語られる真のお母様

お母様のみ言を聴く朝食会参加者

真のお母様と記念撮影

本郷苑に参拝する巡礼参加者

真のお母様のみ言

私たちは摂理の春を迎えた、と話しました。春を迎えて、既存の方法とは違う方法で、私はたとえ困難でも、大変でも、摂理を終わらせなければならないし、真実を明らかにしなければならないので、そのような困難な路程を歩んでいるのは事実です。

しかし天の父母様がいらっしゃるので、そして真の父母により祝福を受けた皆さん、祝福家庭がいるので、皆さんはヒマワリのように私と整列された姿勢で皆さんに与えられた責任を果たしていくとすれば、天の父母様の夢、人類の願いは必ず成されていくでしょう。問題は私が地上にいる間に、そのような結果を天の父母様の前に奉献することが、後代、皆さんの後孫たちに、未来に来るであろう人類の前に、一層誇らしい皆さんになることなのです。

このような時が、いつもあるのではありません。一人の人間として見ても、私と一緒にいるという時間は、皆さんの年齢においても黄金期なのです。黄金期。それを逃してはいけません。

私たちの目標、私たちが行く道も一つです。天の父母様の前に誇らしい息子娘として行く道なのです。天の父母様が「ご苦労だった、私の娘よ、私の息子よ」と、このように抱いて下さる皆さんになることができる、地上生活をしているこの時が、黄金期である、ということを知らなければなりません。（はい、拍手）

皆さんが地上生活をしている間、他の人とは違う富を持った、あるいは他と違う知識を持った、とすれば、それらは全て誰のためのものですか。自分のためのものと考えれば、残るものがありません。摂理のために、み旨のために、天の父母様のために、人類のために、私がこのように身を捧げ貢献して摂理を助けたということが、皆さんが今後、後孫の前に誇りとなるものです。そのような機会を私は与えたのです。そうだとすれば、感謝しなければなりませんか、不平を言わなければなりませんか。（感謝しなければなりません）

私たちの生活は、毎日変わっていくように、感謝する心で天の前に近づいていく人生にならなければなりません。地上生活は永遠ではありません。私たちは永遠な世界に対して、地上での最善を尽くし、功績を立てて行く道ではありませんか。そうですか、そうではありませんか。（そうです）

2020に対してあまり残っていません。特に私が韓国にいるので、韓国の指導者8人を選び、21日間の特別精誠を捧げなさいと言いました。私はこのように話しました。本来天の父母様が創造された、理想とされたその世界を、必ず私がつくらなければなりません。天の父母様が「全て成された。誇らしい、愛する私の息子・娘たちよ」と言われる理想世界、そこに何かしらの枝分かれや汚点があってはいけません。完全に真の父母と整列された立場、その立場で皆さんが責任を果たす、勝利した者にならなければなりません。

[制作]
世界平和統一家庭連合
広報文化局

“チャレンジ精神”で母の国勝利の突破口を開こう！

岡山で「第４地区４月度責任者出発式」

①第４地区の責任者
②徳野英治会長
③金満辰地区長

４月４日、岡山家庭教会（岡山市）に徳野英治会長を迎えて「第４地区４月度責任者出発式」が開催され、第４地区（近畿・中国・四国）の20教区82教会の牧会者・婦人代表、主要スタッフなど総勢300人余りが参加。神日本家庭連合が５地区体制となって初めて、第４地区の責任者が一堂に会して共に出発する機会となりました。

京都教区の宮田貴子婦人代表による証しのあと、金満辰（キムマンジン）第４地区長が挨拶し、「４数が４つ並ぶ意味深い日に、日本に責任を持たれる徳野会長をお迎えすることができました」と感謝の言葉を述べました。

続いて、徳野会長が登壇し、メッセージを語りました。

徳野会長はその冒頭、金満辰地区長の素晴らしい点として、①天運をつかむ感性②責任感の強さ――の２点を指摘。また、自らの氏族伝道の体験や真の父母様との出会いのエピソードなどを織り交ぜながら、今年１月にセネガルで開かれた「ワールドサミット・アフリカ」の勝利の偉大さや、連帯すると大きな力を発揮する日本人の特性を活用して神氏族メシヤ活動を推進することなどを強調しました。

さらに、２月の韓国・平昌オリンピックで金メダルを獲得した男子フィギュアスケートの羽生結弦選手の例を挙げて「チャレンジ精神」の大切さを訴えました。

徳野会長の力強いメッセージを受け、参加者一同、決意新たに億万歳を唱和して出発しました。

その後、徳野会長は、１階で行われていた「第４地区二世圏祝福の為の写真交流会」を見学。祝福候補者の写真に手を添えて祝祷し、神氏族メシヤの勝利に向けて、第４地区全体に天運が連結される尊い時間となりました。

参加者からは、「徳野会長をお迎えして、第４地区の全教区・教会の責任者が集まって行われた出発式は、和合の霊界がここから働いていくと、大きな意義を感じました。金満辰地区長の『精誠を尽くせば奇跡が起きる』との実感のあるメッセージに、『本当にそうだ』と勇気づけられられました」（南大阪・婦人代表）、「アフリカの証しを通じて、真の父母様がどれほど深刻な心情で、命懸けの決意と戦いをしながら絶対精誠を立ててこられたのかを深く感じることができました。そして、責任者の内的決意と動機、精誠がどれほど重要であるかを感じ、身の引き締まる思いになりました」（岡山･婦人代表）といった感想が聞かれました。

孝情の花を咲かせ、未来をつかもう！

「神日本家庭連合 第１地区前進決意大会」開催

①前進決意大会の参加者
②田中富広地区長
③全体で「勝利の日まで」を合唱

「宣教60周年の原点に返り、孝情の花を咲かせ、未来をつかもう！」をテーマに掲げ、「神日本家庭連合 第１地区前進決意大会」が４月６日、東京都武蔵野市内の会場で開催され、第１地区（関東）の牧会者・婦人代表や中心食口など1250人が参加しました。大会の模様はインターネット中継され、第１地区全体の食口が心を一つに大きな希望を抱いて出発しました。

大会では、真のお母様のみ言映像の上映、「竹ノ塚聖歌隊」（北東京教区竹ノ塚家庭教会）による歌のあと、司会が開会宣言。報告祈祷、天地人真の父母様への花束贈呈などに続いて、功労者への功労牌の授与と３月度の優秀教区・教会への表彰が行われました。

続いて、神日本家庭連合第１地区と姉妹結縁を結んだ神韓国、神アメリカの第１地区の朱鎭台（ジュジンテ）、デミアン・ダンクリー両地区長がそれぞれ、映像を通じて激励のメッセージを贈りました。

引き続き、田中富広地区長（副会長）が登壇し、第１地区全体の方針を発表しました。

その中で､田中地区長は「私（個人）が天一国をつくり、私の家庭が天一国となり、地域を天一国にしていくのが天の摂理的ビジョンであり目的です」と強調。そのうえで「地域天一国化の主人は、間違いなく壮年です。壮年メンバーが地域の主軸となり、家庭を出発して地域に定着した青年層と力を合わせながら、地域の名士たちを巻き込み、大きな運動のうねりをつくり上げていかなければなりません」と訴え、教区・教会の壁を超えて「地域天一国化」を推し進め、救国救世基盤の造成につなげていく考えを表明しました。

また、「もう一つのテーマは未来です。はっきりした未来を掴みたいというのは、お母様のご心情そのものです。未来を確かなものにするため、真のお母様は二世圏に限りなく投入しておられます」と説明。「個性ある二世圏を束ねるのが“孝情”です。どんな立場にいても孝情という点において、二世圏が躍動し、輝く道をつくっていくのです」と述べ、全国の青年メンバーの約半数を擁する第１地区が、全国の二世圏を牽引していく使命があると訴えました。

田中地区長のメッセージの合間には、壮年１人と二世圏のメンバー２人が、地域化や伝道などの模範的な取り組みを発表しました。

続いて、各教区の紹介と決意を表明する映像上映のあと、全体で「勝利の日まで」を力強く合唱しました。

最後は、田中地区長による祝祷のあと、億万歳四唱を行い、大会は閉幕しました。

世界に向けて多くの青年リーダー輩出を

北東京教区「青年センター」がオープン

①青年センター前で徳野会長夫妻を中心に記念撮影
②記念メッセージを語る徳野会長
③足立青年部の聖歌隊による合唱
④ダンスを披露する足立青年部のメンバー

4月1日、北東京教区の「青年センター」(東京都足立区)の献堂式が行われ、青年メンバー約300人のほか、地元議員などの来賓や多くの先輩食口が祝賀に駆けつけました。

最初に同センター1階で、徳野英治会長夫妻を迎えてテープカット、除幕式、聖別式が執り行われました。

センター2階で行われた第2部の献堂式では、オープニングとして足立家庭教会青年部の聖歌隊による歌と荒川家庭教会青年部のメンバー3人による祝歌が披露。開会宣言、天一国の歌斉唱、代表報告祈祷などのあと、李昌模(イチャンモ)・北東京教区長が主催者挨拶を行いました。

続いて、田中富広・第1地区長(副会長)が激励の辞を述べ、「高校を卒業した若者たちが全国から第1地区(関東)に集まってきますが、彼らをしっかり迎え入れることが第1地区の使命です。青年センターが“火の柱”“雲の柱”となって都会にやって来る若者たちを導く役割を果たすことを大いに期待しています」と述べました。

来賓挨拶のあと、徳野会長が登壇し、記念メッセージを語りました。

その中で徳野会長は、真の父母様のみ言を引用しながら、家庭連合の教えの核心ポイントとして、「為に生きる人生」「天国は家庭で入籍」「超宗教」などのほか、「ナショナリズムとグローバリズムの調和」を指摘。「文鮮明先生は『自分の国を愛することができずに世界のことを愛することはできない』と語られました。まず足立・葛飾区を愛すことで、この地から世界平和は始まるのです」と強調しました。

また、4月1日は真のお父様が日本留学のため山口県下関市の地に降り立たれた「日臨節」であると紹介したうえで、「奇しくも、日臨節に北東京青年センターの献堂式を迎えました。文先生が当時どんな夢を抱き、どんな青春時代を送られたのか、文先生の青春時代に思いを馳せながら、きょう1日を過ごしてください。また、かつてのように北東京から多くの青年メンバーが輩出されることを願っています」と述べました。

徳野会長の祝祷に続き、足立青年部のメンバーが躍動するダンスを披露して盛り上がったあと、最後は伝道の勝利を決意しながら全体で億万歳四唱を行い、献堂式は幕を閉じました。

天の伝統を相続し、未来を切り拓こう

2018年春季 Jr.STF 修錬会を開催

青年学生局 成和学生部長 伊藤安昭

①合同閉会式のあと全体で記念撮影
② Pink 修で原理講義の演習を行う修錬生
③ White 修の決意式

3月27日～4月1日にかけて千葉中央修練所(千葉市)で、青年学生局主催のJr.STF修錬会として、成和学生が将来祝福に向かうための準備教育を目的とする「Pink原理修錬会」と、信仰を土台とした進路教育と勉強実践を目的とする「White学習修錬会」が、5泊6日の日程で同時開催されました。

Jr.STF Pink 原理修錬会

「天の伝統を相続し、理想家庭を築く私となろう!」のスローガンのもと開催された「第14回Jr.STF Pink原理修錬会」には、全国からJr.STFメンバーである成和学生84人が集い、主に高校生が参加しました。この修錬会は、中高生期から将来の祝福に向けて理解を深め、準備をしていく祝福準備教育の推進を目指しています。

修錬会の前半では、家庭教育局の阿部美樹局長による祝福講座と、同局の松山平男家庭部長による二世祝福の歴史の紹介や証しのあと、修錬生は日々の生活の中で純潔を大切にする生活姿勢についてディスカッションを行いました。

修錬会の後半では、小畑守男千葉中央修練所所長による真の父母様の生涯路程の講義、成和学生会報の原理コーナーを担当する講師から原理講義を受けたあと、2日間にわたって原理講義演習を行いました。

Jr.STF White 学習修錬会

「第31回Jr.STF White学習修錬会」は、「天の伝統を相続し、神様の夢の主人となろう!」のスローガンを掲げて開催。この修錬会には全国からJr.STFメンバーである成和学生86人が集いました。春に開催する学習修錬会は、新たな進路に向けて1年後に成和学生部を卒業する高校3年生を対象としています。

修錬会の前半では、勉強に対する意識を高めるための「勉強の主人になろう!」というテーマのディスカッションや「勉強の目的」を学ぶ講座、勉強実践の時間を持ちました。修錬会では、主要大学(東京大学、早稲田大学、東京芸術大学、国公立大学医学部など)に通う大学生が班長を務め、個別面談など通して、修錬生の進路に向けた内外の姿勢を整理していきました。

修錬会の後半では、16時間勉強実践を行い、大学生の班長による専門分野紹介のための分科会や社会人二世による証し、夢発表会、全体の前で受験期の決意を表明する「決意式」などの多様なプログラムを行いました。

最後に、両修錬会の合同閉会式が行われ、竹内啓晃青年学生局長が講話を行いました。天一国創建のためにみ旨の先頭に立って歩まれる真の父母様の姿を改めて知り、修錬生たちは新たな決意を持って新年度を出発していきました。

「日臨節」77周年を祝賀し、早稲田・高田馬場聖所巡礼

山口教区では「孝情文化フェスティバル」開催

① JR 高田馬場駅前に集まった聖所巡礼の参加者
②山口市内の会場で開催された孝情文化フェスティバル
③山口教区が行ったパネル展示会

4月1日､「日臨節 77 周年 早稲田･高田馬場聖所巡礼」が都内で行われ、教会員およそ 100 人が、真のお父様の日本留学時代のゆかりの地を巡り、お父様の若き日々に思いを馳せながら、新たな気持ちで出発しました。

真のお父様は 1941 年 4 月 1 日、韓国から船で山口・下関港に到着、初めて日本の地を踏まれました。それから 43 年 9 月末までの 2 年半、早稲田大学附属早稲田高等工学校で学びながら、真理探究の日々を過ごされました。家庭連合では 4 月 1 日を「日臨節」と呼び、毎年下関と東京で記念行事を行っています。

巡礼参加者は、JR 高田馬場駅（東京都新宿区）前に集合。最初に 1959 年 12 月に日本で最初に伝道された増田勝「早稲田・高田馬場聖所巡礼会」会長と、早稲田大学原理研究会 OB の飯野貞夫特別巡回師が挨拶を行いました。飯野巡回師は 65 年 10 月、真のお父様が早大原研「早成寮」（中野区野方）を訪ね、お父様の代りに早稲田・高田馬場の地を歩んでほしいと聖所巡礼を指示された場に参席していました。

参加者一行は、本部歴史編纂委員会の井口康雄部長から概要説明を受け、巡礼に出発。まず 59 年 10 月 2 日に初めての礼拝が捧げられ、日本家庭連合創立の地となった「雄鶏舎時計店」の跡地を訪れました。

続いて、旧戸塚警察署跡地を経由し、お父様の下宿先だった「三橋家」跡を訪問。最後に、入学式の参列者でにぎわう早大構内で、お父様が留学当時に学ばれた校舎跡などを見学しました。

◇　◇　◇

山口教区は 4 月 7､8 日の両日､山口市内の会場で「日臨節 77 周年記念 孝情文化フェスティバル」を開催しました。

1 日目から 2 日目の午前にかけては、真の父母様の生涯路程、家庭連合の 4 大ブランドを紹介するパネル展示会を開催。隣接するホールでは、記念公募作品の展示コーナーを設け、真の父母様の似顔絵や家族写真などを展示し、延べ 306 人が来場しました。

2 日目午後に行われた本大会には、地元議員など来賓の臨席のもと、新規ゲストと久しぶりに参加したメンバー 103 人を含む約 1000 人が参加。稲森一郎先生が記念講演を行い、日本留学時代に怨讐を超えて日本を愛されたお父様の歩みを証ししました。

また、韓国の民俗芸能ハンソリやダンス、バンド演奏など趣向を凝らしたエンターテイメントのほか、抽選会など盛りだくさんのプログラムで参加者を楽しませました。

霊肉界合同作戦で今の摂理を勝利しよう！

「中日本霊園聖和祝祭」を開催

①聖和祝祭の参列者
②佐野邦雄特別巡回師
③小藤田喜文地区長
④献花を行う聖和者の遺族

4月7日、三重県鈴鹿市の峯ヶ城霊園パークで、「第6回中日本霊園聖和祝祭」が開催され、強風と季節外れの寒さのため防寒具で身を包みながら 800 人を超える人々が参列しました。

式典は午前 10 時 20 分、地元鈴鹿家庭教会の「Bell Deer Choir」の歌声で開幕。聖歌讃美、敬拝、「家庭盟誓」の唱和のあと、昨年の聖和者の遺族代表が報告祈祷を行いました。

来賓紹介と関係者による献花に続いて、西口善久「中日本愛苑会」代表理事が経過報告を行い、現在 1350 基の墓が完成し、現時点で 178 人の遺骨の受け入れが済んだほか、400 人の新規購入申し込みを受付中であると説明。また、年 4 回『愛苑便り』を発行していく考えを明らかにしました。

その後、吉川昌宏・第 4 地区事務局長が、事情があって墓を持つことができなかった先輩家庭・食口の名前を刻む「記念碑」について紹介。さらに、坪井利之代表理事が挨拶し、「墓は過去・現在・未来をつなぐ接点としての役割があります」と述べたあと、小藤田喜文・第 3 地区長が「この聖和祝祭を契機として、真の父母様という“根”につながり、天運を周辺に連結する祝福中心家庭として新しい出発をしましょう」と語りました。

引き続き、主礼を務めた佐野邦雄・天一国特別巡回師が記念講話を行いました。

その中で佐野巡回師は、真のお父様の聖和と時を同じくして出発した中日本霊園の歴史に触れ、2009 年に宣布された「霊連世協会」に始まり、聖和祝祭に至る摂理的展開の過程を説明しながら、「3 年間の侍墓精誠期間の勝利を通して、霊界のお父様と地上のお母様が完全一体となられ、今の摂理を牽引しておられます」と強調。そのうえで、今年 1 月にセネガルで開催された「ワールドサミット・アフリカ」の勝利に象徴されるように、真の父母様が一つになられた基台の上に摂理が進展していると述べ、「私たちも常に霊界を意識し、真の父母様の勝利に続いて、霊肉界合同作戦で今の摂理を勝利していきましょう」と呼び掛けました。

最後に、安井邦彦・三重教区長の音頭で億万歳四唱を行い、全体を締めくくりました。

西東京教区で「自叙伝書写」5周年記念大会

西東京教区は4月1日、東京都府中市内の会場で「自叙伝書写感謝の集い5周年記念大会」を開催し、外部のゲスト700人を含む約2500人が参加しました。

金紋爽（キムムンソク）教区長による主催者挨拶、田中富広第1地区長（副会長）や地元議員など来賓からの挨拶のあと、浅川勇男先生が記念講演を行いました。

大会に先立ち、会場ロビーでは14カ国の宣教師がそれぞれブースを開き、現地での活動を紹介。また、民芸品の即売や民族衣装を着ての撮影会などが行われ、参加者たちに大好評でした。

また壮年メンバーが、真のお父様が日本留学時代に歩まれた川崎や品川の地を紹介したパネル展示について説明。キッズブースでは、子供たちがタイの民族舞踊を披露したり、プロのパフォーマーがジャグリングやバルーンアートなどで子供たちを楽しませました。

会場を埋めた2500人の参加者

書写実践を行う参加者

北福岡教区でチャリティーイベントを開催

北福岡教区は4月8日、北九州市内の会場で「第4回 チャリティーバザー for 朝倉災害支援 及び 熊本震災支援」を開催。午前11時から行われたフェスティバルには、新規・再復帰ゲスト約50人、氏族9人を含め、多くの食口が参加し、定員300人会場が満席となりました。

フェスティバルでは、秦昭一八幡家庭教会長が主催者挨拶を行い、真のお父様の自叙伝を訓読したうえで、「被災された方々のために、全体で1分間の黙祷を捧げましょう」と呼び掛けました。

「九州鮮鶴合唱団」が美しく澄んだ歌声で3曲を披露したあと、これまでのチャリティーバザーの映像上映と昨年7月に行われたバザーの結果報告がありました。

最後に、北九州家庭教会の河村政俊副教会長が「ハートフルメッセージ」として講演を行い、「為に生きることが幸せになる道です」と訴えました。

フェスティバル閉幕後は、参加者たちがそれぞれ机を囲みながら、和気あいあいと食事をしました。

一方、隣接する展示ホールでは、午前10時から午後3時までチャリティーバザーが行われ、新規のゲストも積極的に参加していました。

歌声で会場を魅了した「九州鮮鶴合唱団」

たくさんの人々が詰めかけたバザー会場

各地で野外礼拝を開催

山口・下関家庭教会

山口教区下関家庭教会は4月1日、山口県下関市内の公園で野外礼拝を行い、食口およそ120人が集いました。桜の花が満開に咲き誇り、多くの人で賑わう中、食口たちは、石尾豪志教区長の説教を通じて恩恵を受けたあと、花見をしながらバーベキューを楽しみ、普段おろそかになりがちな家族交流もできて大満足の1日を過ごすことが出来ました。

鹿児島・霧島家庭教会

鹿児島教区霧島家庭教会は4月1日、霧島市内の公園で「霧島山水苑 春のバーベキュー・グラウンドゴルフ大会」を開催。多くの家族連れを含む約100人が、豊かな自然の中で心と体を大いにリフレッシュさせていました。全体で『原理講論』要約訓読チャート（1時間用）を訓読したあと、大量に準備された食材でバーベキューを堪能。食欲が満たされたあとは、およそ70人がグラウンドゴルフを楽しみました。

西大阪・吹田家庭教会

西大阪教区吹田家庭教会は4月1日、大阪府豊中市内の緑地公園で「孝情吹田ファミリー野外礼拝」を行い、食口およそ250人が集いました。申大燮（シンテソップ）教区長の説教のあと、チーム別に歌を披露し、孝情の心情を育む時間を持ちました。礼拝後は、バーベキューを囲みながら、皆が笑顔で楽しいひと時を過ごしました。

西大阪・大阪孝成家庭教会

4月1日、大阪孝成家庭教会は大阪府吹田市の大阪万博記念公園で野外礼拝を行い、満開の桜に誘われて子供を含む56人が参加しました。高橋正教会長が「神様の愛と自然」と題して説教を行い、食事を取ったあとは、全体でクイズやじゃんけんゲームをして過ごしました。

大分で「お花見バーベキュー」

大分教区は4月1日、大分市内の市民公園で「お花見バーベキュー」を開催し、大学生や社会人、家庭青年合わせて60人が集まりました。企画・運営などすべてを青年メンバーが行い、新規の二世・青年約15人も参加。バーベキューやゲームなどを通じて交流しました。